

27 エビジャコ属の一種

(エビジャコ科)

兵庫県ランク:B

*Crangon* sp.

*Crangon* aff. *affinis*

環境省ランク:指定なし

種の概要

北海道から九州にかけての河川汽水域、内湾、前浜干潟などの細砂底やアマモ場に生息する。体長25mmほどの小型種で、体は縦扁し、額角は非常に短く目立たない。体色は濃淡の変異のある淡い褐色で、体中に微小な黒褐色斑が散在し、まだら状となる。本属には類似した数種がある。ここでは、種名を言及せず、エビジャコ属の一種として扱った。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
△				○			○

県内分布

高砂市、姫路市、赤穂市、豊岡市、香美町、洲本市

県内における生息状況及びその他特記事項

CからBに変更。本県では、日本海・瀬戸内海流入河川、淡路島中部の汽水域や前浜干潟に分布するが、既知産地は散見的である。細砂底の還元性の低い水底に生息し、干潮時の滞筋や溜まりなどの浅い水域で見つかりやすい。ただし、砂色に同化した小型種であることで見つけにくく、これが、既知産地を少なくしている要因になっている可能性もある。なお、2003年版、ならびに増田(2011)ではエビジャコ *Crangon affinis* De Haan, 1849 として報告している。

保護上の留意点

細砂の前浜干潟や河口干潟、アマモ場の存在が限られている現状では、他種も含めて本種の現存する生息地の保全に努めることが最重要である。既知産地では、埋め立てや護岸工事、離岸堤により干潟の減少や底床の組成変化が生じた例もあり、配慮が必要である。



写真提供：増田修



写真提供：西宮市貝類館

【執筆者】 増田修